

公開セミナー

参加無料・参加申し込み不要

日時：2025年11月15日（土曜日）午後4時から

場所：愛媛大学 中央図書館4階「視聴覚室」

4:00~4:40（質疑応答を含む）

杉山香織（西南学院大学）

「AI活用型フランス語教科書における学習者の自律性と動機づけの検討

—『私たちの未来が危ない—グレタにつづけ』のアンケート分析を通して—」

4:40~5:20（質疑応答を含む）

西山教行（京都大学）

「カリキュラムと教材に見る旧制高等学校のフランス語教育について」

5:20~6:00（質疑応答を含む）

ムートン・ジスラン（同志社大学）

「日本で出版されたフランス語の教科書におけるフランコフォニーの多様性と課題－初修外国語のレベルで何ができる？」

Les défis liés à l'introduction des réalités francophones dans les manuels de FLE japonais : quelles options pour le niveau débutant ?

6:30（予定）

情報交換会

*情報交換会参加に関しては、予約が必要です。11月9日までに大木充

ohkimitsuru@me.com と柳光子 yanagi.mitsuko.mx@ehime-u.ac.jp までお知らせください。

レジュメ

杉山香織

「AI活用型フランス語教科書における学習者の自律性と動機づけの検討

—『私たちの未来が危ない—グレタにつづけ』のアンケート分析を通して—」

本研究は、翻訳AIや生成AIの使用を積極的に促す初のフランス語教科書『私たちの未来が危ない—グレタにつづけ』を対象とし、AIの活用が学習者の自律性および学習動機づけに及ぼす影響を明らかにすることを目的とする。

この教科書は、Google翻訳、DeepL、ChatGPTなどのAIツールを授業活動の中で積極

的に活用することを想定して設計されており、翻訳・誤文訂正・対話練習などを通じて、AI を学習者の支援的パートナーとして位置づけている。その構成は、AI の利用を制限してきた従来の外国語教育とは異なり、AI を教育実践に体系的に組み込む新たなアプローチを提示するものである。

本発表では、この教科書を用いた授業を受講した学生を対象に実施したアンケートの結果を分析し、AI 活用型学習が学習者の主体性、自己効力感、学習意欲の形成にどのように関与しているかを検討する。特に、AI との関係性において生じる「支援」と「依存」の均衡、ならびに学習者が AI をどのように自己の学びの構成要素として捉えているかに焦点を当てる。

最終的に、AI の支援を活用しながら学習者の自律性を保持・強化する授業設計のあり方を示し、AI 時代における外国語教育の新しい方向性を展望する。

西山教行

「カリキュラムと教材に見る旧制高等学校のフランス語教育について」

戦前の日本においてフランス語教育はごく少数の若者を対象として実施されており、なかでも旧制高等学校がその中心的役割を担っていた。この報告では、旧制高等学校のカリキュラムと教材に焦点を当て、明治末期から昭和初期にかけてのフランス語教育の実態に迫る。フランス語教育は高等学校における教養の育成にどのように関与し、どのような教育制度がそれを可能にしたのかを検討し、現在のフランス語教育との相違点、外国語教育の民主化がもたらした功罪を議論する。

ムートン・ジスラン

「日本で出版されたフランス語の教科書におけるフランコフォニーの多様性と課題－初修外国語のレベルで何ができる？」

Les défis liés à l'introduction des réalités francophones dans les manuels de FLE japonais : quelles options pour le niveau débutant ?

本研究は、日本で出版された FLE (外国語としてのフランス語) の教科書におけるフランコフォニー (フランス語圏) の表象を分析し、文化的多様性の扱いと異文化間表象の構築を検討することを目的とする。

初級教材 (『総合教材』、『文法』、『講読』のいずれかカテゴリー) では他者 (フランス人・フランス語圏人) の文化が肯定的に描かれ、批判はほぼ見られない。一方、日本で出版された教科書の中にフランコフォニーのテーマを中心にしている教科書は 3 冊もあるため、本発表ではその珍しい教材の分析結果に焦点を当てたい。

結果としては、中級レベル以上では、フランス語圏の複雑で多面的な現実を批判的に捉えるアプローチが増えていることが確認できた。このような批判的かつ多面的なアプローチを用いる教材は、フランス語教育を通じて複文化的で批判的な視点を育む可能性を示し、教員育成、教育政策や教材開発におけるさらなる改善の余地を示唆しているとも言える。

最終的に、「初修外国語のレベルで何ができる」かについて検討したい。

Cette étude a pour objectif d'analyser les représentations de la francophonie dans les manuels de FLE (français langue étrangère) publiés au Japon, en examinant à la fois le traitement de la diversité culturelle et les modalités de construction des représentations

interculturelles.

Dans les manuels destinés aux niveaux débutants (catégorisés comme « manuels globaux », « grammaires » ou « textes de lecture »), les cultures de l'*Autre* – qu'il s'agisse des Français ou des francophones – sont généralement présentées de manière neutre ou positive, les discours critiques étant quasi inexistant.

Toutefois, on observe que trois manuels publiés au Japon prennent explicitement pour thème central la francophonie. Cette communication souhaite donc porter une attention particulière à l'analyse de ces ouvrages singuliers.

Les résultats montrent qu'au niveau intermédiaire et avancé, certains manuels adoptent une approche plus critique et multidimensionnelle des réalités complexes du monde francophone. Ces approches critiques permettent de faire émerger, à travers l'enseignement du français, des perspectives pluriculturelles et réflexives chez les apprenants. Elles soulignent également la nécessité d'améliorations dans la formation des enseignants, les politiques éducatives et la conception des ressources pédagogiques. En conclusion, cette étude propose de réfléchir à ce qu'il est possible de mettre en place dès les premiers niveaux d'apprentissage d'une langue étrangère, afin de favoriser une éducation plurilingue et interculturelle en contexte japonais.

この公開セミナーは、科研事業（24K04053）「翻訳AI・生成AIによる自律性支援と学習者の動機づけ」の一環として実施します。